

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年11月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105115
法人名	有限会社 鹿児島メディカル
事業所名	グループホームあらた
所在地	鹿児島県鹿児島市荒田1丁目51番14号 (電話) 099-252-2561
自己評価作成日	令和2年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ① 利用者の生活の質向上を目標に、毎年アンケートを実施し、可能な限り利用者のニーズを最大限受け止めることを大切にしている。
- ② 身体拘束廃止・虐待防止、安全対策、感染症対策、接遇委員会等を設置し、年間行動計画を立て、実施し、利用者の安心、安全につなげている。また、内・外部研修を積極的に開催し、(現在外部研修はネット配信の研修に参加している)ケアの質の向上に努めている。
- ③ 人員体制も手厚く、介護支援専門員・介護福祉士・看護師・管理栄養士がそれぞれの専門性を発揮している。
- ④ 地域の中で、グループホームとして認知症ケアの専門性を発揮し、小学校・地域住民に「認知症サポーター養成講座」を実施したり、近隣の保育園や幼稚園、小中学校との交流や、中高校生の職場体験学習も積極的に受け入れている。(今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、受け入れを自粛している。)
- ⑤ 2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、地域の交番、消防、地域包括センター、町内会長、民生委員、地域住民、利用者家族代表の出席があり、活発な意見交換がなされ、ホームの運営、ケアの質向上につながっている。現在、新型コロナウイルス感染症予防にて運営推進委員は参加せず、事業所内(施設長、事務長、管理者)にて会議を行い、委員には議事録を配布している。
-

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年11月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは公園や商店街、小・中学校・大学・医療機関等のある市街地に位置している。協力医療機関との連携は十分に図られ、予防に主眼を置いた健康管理と安全確保に重点を置いて支援している。管理者は職員の育成にも熱心に取り組む、職員と共に良いケアの充実に工夫を重ね家族からの信頼も厚い。

現在は感染症予防で制約はあるが、地域との交流は大切に、町内会にも加入して行事や清掃活動への参加のほか、地域住民から避難訓練に協力してもらい、また、認知症理解推進活動も一緒に展開している。ボランティアや実習生の受入れ、小学生や幼稚園児・保育園児との交流も盛んに行われている。

利用者や家族の思いや意見を日頃より把握に努め、日々の申し送りや業務日誌等の活用で情報共有を図り、各種のミーティングやケア検討会等で話し合い、ケアに具体的に反映している。ホームの納涼会や敬老会、忘年会時の家族会などには家族の参加も非常に多く、職員と家族で利用者のより良い暮らしの実現を図っている。

感染症予防のため制約を受け休止しているものもあるが、利用者の楽しみを充実させるため細かく配慮している。利用者との会話やアンケートから献立工夫のほか、年に数回は季節に合った食事やおやつを提供、誕生会等の特別食、家族も一緒に食事会や外食、弁当持参の花見なども企画している。外出も工夫して近隣公園の散歩やコスモス見物のドライブ、屋上での外気浴を支援している。リビングでのレクリエーションも多く工夫で楽しく日常が過ごせるように支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念の唱和を毎朝朝礼にて行っていたが、新型コロナウイルス感染予防対策である「3密」を回避するため現在は中止している。地域とのつながりについても同様で、その都度対策が必要である。	法人及びホームの理念を基に職員個々に年間目標を設定して、地域とのつながりを大切にしてその人らしく生きがいを持たせて暮らせるように日々のケアに取り組んでいる。全体ミーティングやケア検討会、内部研修で理念の意義を振り返り、課題等も抽出している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は、校区の小学校行事への参加、地域のボランティアの方や幼稚園児・小学生との交流があったが、現在は新型コロナウイルス感染予防対策の「3密」回避のため、地域とのつながりは中断している。	現状は感染症予防で休止中だが、町内会に入り清掃活動や小学校の行事に参加、また、幼稚園児・小学生とも交流している。ホームの納涼会や敬老会等には地域住民の参加もあり、防災活動でも連携している。実習生やボランティアの受入、地域住民への認知症理解推進や相談への対応に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	毎年、「認知症サポーター養成講座」を開催し、認知症見守りメイト、サマーボランティア、大学看護学科学生等に実習生の受け入れを行っているが、現在は新型コロナウイルスの影響のため、行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	プライバシーに十分に配慮した上で、ご利用者の生活状況やインシデントについて詳細に報告、更にサービス提供情報、行事等の報告、様々な問題点について協議テーマを設け、幅広い意見を受け、ホームの運営やサービス向上に活かしていたが、現在は、新型コロナウイルス感染予防対策のため、運営推進委員は参加せず事業所のみでの開催。議事録を委員へ配布している。	現状は感染症予防でホームのみで開催して議事録を委員に配布しているが、従来は家族や民生委員、地域住民・消防・警察・地域包括センターの職員等が参加し、毎回テーマを設定して開催している。ホームや利用者の現況報告や行事・事故・問題点等についての話し合い、また、地域との情報共有も図ってホームの運営やサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	以前は市の介護相談派遣事業の受け入れを行っていたが、現在は新型コロナウイルス感染予防対策のため、行っていない。自己・外部評価の提出等は市との連携を十分に行い、協力関係を継続している。	介護相談員の受入れを行い、市担当者とは現状はメールや電話で入退所や認定更新の手續等の相談に助言・対応してもらいサービス向上に取り組んでいる。市主催のネットによる研修会や感染症予防で中断しているがグループホーム協議会にも参加して意見交換も行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を2ヶ月に1回開催し、議事内容を回覧・全体ミーティングにて報告を行い、全職員が共有できるようにしている。また、職員の内部研修で1年に2回身体拘束・虐待について実施し、全職員が日頃からのケアについて振り返り、身体だけでなく、心理的虐待や精神的拘束に繋がっていないか等の知識・理解・意識向上に取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会の内容は全体ミーティングで報告されて職員で共有し、言葉による行動制限を始めとする身体拘束や高齢者虐待に関する勉強会、毎月のケア検討会での話し合いで日々のケアを振り返り、職員の理解を深めて尊厳やプライバシー保護を大切にされた適切な言葉かけや対応に努めている。居室や玄関等の施錠は原則として行わず、利用者の状態や行動把握に努めて外出時は職員が付き添うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に1回身体拘束委員会と虐待防止委員会を開催し、議事内容を回覧・全体ミーティングにて報告し、全職員が共有出来るようにしている。なお、毎月ご利用者のケア検討会を開催し、日頃のケアについて振り返り身体的虐待・心理的虐待等に繋がっていないかを確認し、全職員で情報共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している対象者はいない。全職員が内・外部研修を踏まえて権利擁護とは、利用者本位であり、利用者の人権を守るための重要な制度であるということを理解している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関して重要事項説明書、その他契約の締結時・改正時には、利用者・家族に分かりやすく説明し、理解・納得して頂けるよう努めている。また不安に思っていることや疑問に思ったことを尋ねやすいよう環境を作り、理解・納得した上で契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口を計画作成担当者が兼任。利用者・家族が気軽に意見や要望を伝えられる環境を作っている。定期的に解決窓口の取締役・顧問・管理者による意見や要望等に関する委員会を開催、議事内容や対応策については、第三者でも閲覧できるようにしている。また各階の家族が参加できる運営推進会議は、現在新型コロナウイルス感染予防対策の「3密」を回避するため行っていない。	利用者の思いや意見は日々の暮らしや利用者アンケートから、家族とは現状感染症予防で制限も多いが、不安や疑問なども含めて話しやすい環境作りに努め、運営推進会議や来訪時の対話、忘年会時の家族会等で把握に努めている。業務日誌等で職員が共有、必要な対応は申し送りやケア検討会、責任者による委員会話し合い、本人や家族にも報告してサービスへの具体的反映に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営側と職員の間で定期的に面談を行い、運営に関する職員の意見や提案を述べられる機会を設けている。また運営側・管理者は、職員の意見・提案を十分に検討し、ソフト面・ハード面においてより良い運営ができるように反映している。	職員とは法人内で定期面談も行われているが、管理者自身が職員とのコミュニケーションを大切にし気軽に話せる雰囲気作りに努めている。日常の対話のほか、申し送りや毎月の全体ミーティング・ケア検討会などで運営やケアに関する意見や提案も聞き取り、働きやすい環境づくりや業務改善、サービス向上、職員のスキルアップ等につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業年数に応じた昇給制度や資格手当等を設け、職員の意識向上につながる条件を整えている。また、勤務の定時出勤・退勤ができる環境や有給休暇も無理なく取得できるなど職員が働きやすい環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>人材育成担当者による新人教育やフォローアップ研修を通して、職員の経験や段階に応じて教育・研修を実施、職員ひとりひとりがスキルアップできる環境作りを行っている。また、OJTを活用し、2ヶ月に1度内部研修を行い、働きながら知識や技術向上ができる取り組みを行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>鹿児島県・市グループホーム連絡協議会に加入しており、協会主催の研修にはリモートにて随時参加し、同業者とのネットワークづくりを積極的に行っている。また、より良いサービス提供のため、プライバシーに配慮し、同業者間での情報交換を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居決定の段階において、本人の生活歴や性格、利用にあたっての不安や要望などについて家族へアセスメントシートの記入を依頼し、入居後の環境変化にスムーズに馴染めるように、必要な整備等を行い準備している。また、家族の不安を少しでも和らげるために、入居前よりこまめな連絡取り、良好な関係づくりに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居決定の段階において、家族へ希望する支援等を記す書類を用意し、家族の思いを引き出しながら、本人との関係を考慮し、良好な関係作りに繋げている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービス利用前に本人・家族と面談し、現段階において必要とされている支援サービスが何かを一緒に検討している。さらに、様々なサービスの情報を提供し、専門的な見地から、必要とされている支援についてアドバイスを行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>理念である「ご利用者は人生の大先輩である」を念頭に置き、日々の暮らしの中で長年培ってきた能力を発揮できる環境を作り、利用者を敬う心を忘れず、職員と一緒に生活できる関係性を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は一緒に生活する中で、利用者が表現できない不安や思いを感じ取り理解し、家族に伝え利用者の望む暮らしを家族と一緒に検討している。また、家族から無理のない範囲で協力を得られるようにアプローチを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	開設時から、家族だけでなく友人や知人にも気軽に来訪出来るようオープンな環境を作っているが、現在は新型コロナウイルス感染予防対策の「3密」を回避するため、面会を制限している。	現状は感染症予防で制約が多く、家族とのガラス越しの面会やメールでの写真や動画の連絡、電話や手紙の取り次ぎなど支援している。従来は馴染みの美容室や墓参り、近隣へのドライブや散歩、ぬり絵などの趣味、できる範囲の家事、家族との外出や外食、家族や友人の来訪時の対応など可能な支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が、明るい雰囲気と思いやりを持ちともに生活できるように、利用者間のコミュニケーションを見守っている。時に職員が間に入り、利用者同士が心地良い日々を過ごせるよう環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了する前に、他施設や病院への移動を円滑に行えるように支援をしている。移動後の経過など家族との連絡を絶やさず、関係を保ち支援を行っている。また、グリーフケアについて全職員が理解し、家族の心情に寄り添う支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月ケア検討会を開催し、その人らしい暮らしができるように日々分析・検討を行い、職員間で情報共有を行っている。また、日常生活の会話から本人の要望を把握し、思いを言葉にできない利用者へも表情やサインで読み取り、利用者本位の支援に繋げている。	入所時の聞き取りや、日常の言葉や表情・所作、アンケートからうまく表現できない不安や思い・意向なども把握に努めている。ミーティングや毎月のケア検討会、きめ細かいアセスメントシートや業務日誌で共有し、家族とも相談して最良の支援になるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、家族より本人のアセスメントシートを記入して頂き、これまでの生活や馴染みのある暮らしを把握し、サービス利用経過時の情報などを活かしながら、その人らしい暮らしができるよう支援の提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの日常の流れや心身状態を個々で記録し、情報を共有する事で、職員全員の支援の向上に活かしている。また、心身状態に変化がみられる際には、観察シートを記入し、こまめに職員間で共有・把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、計画作成者だけでなく、チーム全体で作上げていくことを全職員が理解している。また担当者会議では、本人・家族が自由に意見が述べられる環境作りに努めているが、現在は新型コロナウイルス感染予防対策の「3密」を回避するため、電話にて対応している。	介護計画は、主治医や看護師の意見も加えて関係者が毎月のケア検討会や定期的な担当者会議等で利用者の状態や本人や家族の意向・希望を共有し、チーム全員で利用者本位のわかりやすいものを作成している。ケアの経過は介護サービス実施表や健康管理記録、支援経過記録等に記述して定期的に評価し、状態の変化に応じて話し合い、利用者がよりよく暮らすために適切に見直し、修正している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの日々の生活の様子やサービス提供内容・健康状態を個々に記録し、職員全員で情報共有・把握に努め、介護計画の見直しやケアの実践等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族へのニーズに対して医療面では、他科受診・往診等は馴染みのあるかかりつけ医を利用できるように支援している。地域のあるん摩師の訪問マッサージや出張理容を活用していたが、新型コロナウイルス感染予防対策のため、現在は行っていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は、地域ボランティアや近隣の小学生・幼稚園児の訪問があったが、現在は新型コロナウイルス感染予防対策の「3密」を回避するため、地域との交流は行っていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人・家族の希望する医療機関の情報を把握し、入居後も継続して利用できるような支援を行っている。また専門医を受診する際には、適切な医療が受けられるよう、本人・家族の希望を重視した支援に努めている。	利用前の受診状況は把握され、本人や家族が希望する、協力医をはじめとしたかかりつけ医の受診を適切に支援し、専門医受診は家族にお願いしている。医療連携体制も整備されて日々の健康管理はホーム及び協力医の看護師、薬剤師と職員が協力して行われ、医師や家族とも適切に情報を交換している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護師を配置し、協力医の看護師へホームでの情報や気づきを報告・相談する事で、適切な診察や看護を受けられるなど、予防・医療の視点での役割が機能している。また、介護職との連携も円滑に行われており、徹底した健康管理がなされている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時のカンファレンスに参加し、病院関係者との情報共有を行っている。また、見舞いも兼ねて入院時は、病院関係者に現段階の状態や、退院の日取り等について情報収集に努め、早期退院を図り、退院後も早期回復出来るように心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、本人・家族へ必要時重度化看取り指針について明確に説明を行い、同意を得ている。また、本人や家族から不安なことがあった際には、主治医との面談を実施し、状態の説明を行い、情報共有できる体制を整えている。	重度化や終末期のケアについては、入居時に指針を基に本人や家族に適切に説明し同意を得ている。また、本人や家族が不安を感じる時には主治医との話し合いが行われ、様々な変化の都度十分に話し合い、看取り介護経過記録にも記録して関係者が情報を共有し、看取りも含めて本人・家族の意向を最大限大切にしている。医師との連携は密にして緊急時には迅速に必要な支援ができるよう、職員への研修充実も図り体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時のマニュアルを作成・掲示し、全職員が瞬時に行動出来るように情報の共有を行っている。ホームのAEDの取り扱いについては、専門業者に定期的に研修を委託していたが、現在は新型コロナウイルス感染予防対策の「3密」を回避するため行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>各階に非常災害時対策マニュアルを作成・掲示し、全職員が情報共有している。また、毎月各階にて火災や地震を想定した日常防災訓練を行い、その時々で変化する利用者への支援について記録している。年に2回消防監督の下、消防避難訓練を行っていたが、新型コロナウイルス感染予防対策の「3密」を回避するため、現在は職員のみで行っている。</p>	<p>現状は感染症予防のために避難訓練は職員中心で行っているが、従来は消防署及び地域住民、家族の参加で年2回の定期的な消火・通報、避難訓練を実施している。また、様々な自然災害を想定した自主訓練も毎月行っている。スプリンクラーや自動通報装置等の設置、非常災害時対応マニュアルのほか食料や水、ラジオ・防災頭巾等の備えも問題なく、訓練の反省と共に報道される災害等の事例を基に職員が意見交換も行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人権を尊重し、プライバシーに配慮した声かけや支援を全職員が行っている。また、より良い生活をしていただくため、プライバシーの保護等について委員会で話し合いを行い、サービスを提供している。	接遇や個人情報保護等の研修を活かし、日々のケアでは利用者の習慣や思い、プライド、プライバシーを大切に言葉かけや対応となるようミーティングや委員会等を通じて方法を共有して実践に取り組んでいる。また、個人記録の保管や居室の保護などにも誇りやプライバシーの確保に徹底した配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自由に表現できるように職員との信頼関係を常に構築している。また、自分で表現できない利用者へは、日頃の変化や表情・サインを感じ取り、支援に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな生活の流れはあるが、出来る限り利用者の希望に沿える生活を支援するために、一人一人のアセスメントを行い、その人らしい生活を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	常日頃から利用者がおしゃれを楽しめる環境は作っているが、新型コロナウイルス感染予防対策の「3密」を回避するために、出張理容や美容学校の学生によるヘアメイク・ネイル等のサービス提供は行っていない。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月旬の食材を使用した献立を管理栄養士が作成し、利用者が季節を感じて、食事を楽しむことができる工夫を日々心掛けている。現在新型コロナウイルス感染予防対策の「3密」を回避するため、職員は利用者と同じテーブルにて食事をしていない。	会話やアンケートから好みをくみ取り、旬の食材を活用し、食卓の準備や片づけ等も一緒に行い楽しんでもらっている。季節感や栄養バランス、健康状態に応じた調理方法にも配慮し、現状は感染症予防で制約も多いが、季節の行事食や誕生日会等の特別食、家族との食事会や外食、弁当持参の花見なども企画している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの健康記録に、その日の食事や水分摂取量を記入し、栄養バランスも考慮しつつ、本人にあった支援を行っている。また、水分摂取量が少ない利用者には、糖質・塩分量を考慮しながら、十分に水分摂取できるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、自分で磨ける利用者には本人磨き後支援を、義歯をしている利用者には、決まった曜日に洗浄消毒を実施している。また、口腔内に異常のあった場合は、歯科医と連携し早期治療を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居時にアセスメントを行い、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握、それぞれへトイレ支援を行っている。自分の意思を伝えることが難しい利用者には、時間を見ながら声かけを行い支援をしている。	家族からの聞き取り情報のほか、排泄に関する個々のデータ、本人の習慣や身体機能、自尊心にも配慮しながらケア検討会で個々に応じた丁寧な声かけや対応を話し合い支援している。利用者の様子を細やかに見守り、排泄チェック表からもリズムを把握し、昼間は羞恥心や不安の軽減にも努めてトイレに案内している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれにあった予防策（毎日のリハビリタオル体操、十分な水分摂取、食物繊維を多く含んだ食事、個々での緩下剤の服用など）を行い、便秘予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は、利用者一人ひとりに体調や希望を聞き、本人の希望する時間やタイミングをみて入浴支援を行っている。入浴を拒まれる利用者には無理をせずに、時間をあけて声をかけをしたり、必要に応じて清拭や足浴を行うなど、気持ちの良い入浴支援を心掛けている。	利用者の体調や安全面に配慮して、アンケート及び利用者同士の会話も含めて好みや習慣・こだわりなど把握して清拭や足浴など含めて、利用者が納得して気持ち良く入浴を楽しめるよう支援している。入浴をためらう場合にはゆっくり話を交わすなど、ケア検討会でもより良い支援を検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれが自由に休息できる環境を作っている。夜間の就寝時間は、個々で異なるので一人ひとりの生活リズムを把握し、気持ちよく安心して睡眠できるナイトケアを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関していつでも確認が取れるよう薬剤師との連携が図れている。利用者の薬剤情報は、効能や副作用・用法等を分かりやすく表示し、健康記録にファイルしており、個々の薬箱も用意・管理している。服薬時は、本人に手渡して飲み込みまで確認し、飲み忘れがないようにしている。また、看護師との連携し、状況の変化にも対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意な事やできることをなるべくして頂けるように、日頃の会話などから個々でアセスメントし、ケアプランに沿って支援している。季節ごとに1年の行事を計画し、利用者が楽しめる環境作りに努めている。また、新型コロナウイルス感染予防で、出かける機会がないため、ホーム内でも楽しめるレクレーションをしたりと気分転換ができる環境を作っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は天気の良い日には近隣の公園へ散歩やドライブ、また家族との外出や外泊を行っていたが、新型コロナウイルス感染予防対策ため、現在は利用者への外出支援を行っていない。	現状は感染症予防のため制約があるが、利用者の好みにも沿って天候や体調を見ながら近隣公園の散歩やコスモス見物のドライブ、屋上での外気浴を支援している。従来は年間計画に沿って、家族とも協力しながら地域の行事や季節の花見、外食などを楽しんでもらっている。家族と一緒に買い物や墓参り、一時帰宅・外泊なども支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談した上で、金銭を管理・保管している。必要時に、金銭の支払いを行っている。一緒に買い物して自分で支払う環境は、現在新型コロナウイルス感染予防対策のため、実施されていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や友人にいつでも電話できる環境を作り、自らかけることができない利用者へは、職員が代行して電話をかけ、お話ができるようにしている。また、家族や友人からの電話の取次ぎも自由にでき、手紙やはがきの投函も受け入れている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が季節を感じて頂けるように、リビングには常に季節の花が飾られおり、枯らさないように心掛けている。また、利用者と職員が自然に会話ができるように、ソファや机の配置などゆっくり座り、居心地よく過ごせる空間を作り、テレビもいつでも見られるような配置にしている。	窓からは桜島が望め、共用の空間は全体的に広く明るく、季節の花や観葉植物が飾られて室温や湿度、清潔感に十分配慮されている。畳のスペースやソファも置かれてゆったりとくつろげる。周囲の壁には手作りの季節感ある絵や貼り絵、それに行事の写真などが飾られている。利用者にとって不快に感じる音や匂いなどもなく、職員と利用者、また、利用者同士が気楽に会話ができ、テレビや多くのレクリエーションも楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・廊下にソファや椅子を置き、ゆっくりとお喋りを楽しんで頂ける環境を作っている。また、利用者同士で仲の良い関係を職員が把握し、話しやすいように席など配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>それぞれの居室には、馴染みのあるものや使用していた家具等を持ち込み、家族写真や思い出の品を自由に配置し、利用者が居心地よく暮らせるように工夫をしている。</p>	<p>居室は広く明るく清潔感もあり、家族とも相談して利用者が動きやすく、安全に暮らせるように希望や状況に応じてテレビや写真、家具、仏壇、身の回りの小物など馴染みのものを持ち込んでもらっている。ホームからはベッド及びエアコン、整理ダンスが備え付けられている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者一人ひとりの個別性に応じ、家具の配置や杖の置き場など、安心して暮らせるように工夫し配慮している。お風呂場やトイレの場所は分かりやすく見やすいように大きく表示し、自分の部屋が分かるように、それぞれの部屋の入り口に表札をかけている。また、歯磨きセットや手洗い用の石鹸等は、随時置き場を検討し、安全で自立した生活が送れるよう環境作りに努めている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない